

平成28年度第2回一宮市子ども読書活動推進懇話会 会議録（要旨）

- 1 開催日時 平成28年9月21日（水）午前10時～午前11時50分
- 2 開催場所 中央図書館 7階 講座室
- 3 出席者 懇話会委員：10名
事務局：8名

4 議 題

- (1) 一宮市子ども読書活動推進計画（第3次）について
- (2) その他

- 5 開 会 （事務局が開会を宣言）
「子ども読書のまち宣言」唱和
図書館長挨拶
懇話会会長挨拶

6 会議録（要旨）

議事進行は、会長が務めた。

(会長) 議題（1）について、修正点や追加事項があればご意見をいただきたい。

(委員) 家庭の役割でのブックスタート事業における絵本配布率が100%というが実際には子どもが絵本を読んでいるかどうかということは分からない。たとえば一宮市民で何%が貸出カードを持っていて、市民として何冊読んでいるのかの指標がない。

(事務局) 指標の設定について家庭の役割や地域の役割で本の配布率を箇所数100%とかあげているが実際にどれだけ本を読んでいるかどうかを指標化するというのは非常に現実的には難しい。

(委員) 行政が本を100%配るように努力すべきことと、それから実質子どもたちがどれだけ本を読んだかということに分けて現状分析したらどうか。足りない数字である一宮市民がどれだけ本を読んでいるか、一宮市民が児童書をどれだけ借りているかを貸出カードで捉えられないか。

(事務局) 今回第3次の計画ということで、今後5年間の計画の目標値を掲げてありますので、今回懇話会のテーマとしてはこちらをご審議いただきたい。目標値の表は、図書館の役割の中で行政としてこれだけの児童一人当たり年間児童図書貸出冊数の数値をあげていこう、目標値を掲げていこうという表である。

(委員) 本だけ増やしたって利用しなければ一緒だ。本を利用するように導くための方法を考えるのが、活動推進計画だ。だから本の配布の行政の努力の部分の項目の他に実際に読んだという尺度を増やしたらどうか。その一つが幼児本とかを一宮市民がどれだけ借りてたかということ进行分析すれば次の計画立案の根拠になる。

(副会長) 市図書館の役割の児童1人当たりの児童図書蔵書冊数の児童1人当たりのというところの児童というのは、小学生までですか。

(事務局) この児童というのは0歳から小学6年生の12歳までを児童としている。中学生、高校生の方の分はこの児童のところには入っていない。統計上、図書館の蔵書をとっては一般書の中からヤングアダルトだけを抽出する作業が難しい。児童書ということで12歳という年齢を区分けして、現在の指標に掲げているが18歳にするともう児童書だけではなく一般書のほうまで広げなくてはならなくなり選別が難しくなる。

(会長) 学校の役割の中で児童生徒の1か月間の不読率というのがありますが、ずっと前から

- 0%できていますが、国の不読率が小学生 4.5%、中学生 16.4%、高校生 53.2%という数値になっていますが一宮の小中学校が0とかこういう数値でよかったですか。
- (委員) 強制的に中学校では朝読書の時間を設けている。二つの効果があって一つは本に親しむ、もう一つはある荒れた学校で、本を読むことによって落ち着きが出てきた。少なくとも朝読書の時間を設けていて、例えばそれで本は何冊読んだよと、実質的に学校で朝読書の時間を取り入れているので不読率は0%。
- (会長) さきほどの家庭の役割の中のブックスタート事業における絵本配布率以外に、逆に何か指標となるべきものを私どもでもし考えればと思うんですが、何かありますか。
- (委員) 一昨年からブックスタートのパックの中に黄色の貸出カード申込書を入れていて、その数値を出しているが確実に増えている。
- (会長) ブックスタートでお渡ししている貸出カード申込書を活用したらどうですか。
- (副会長) それが具体的に図書館とどうつながっているかの指標になるのですね。
- (委員) 4つの図書館で言葉を添えながらボランティアとか主任児童委員が実施しているのでそれも確実に一つの指標になるのでは。
- (会長) この目標値を一つ追加するにあたって、家庭の状況をどうやって把握するのかというのが一つ考えておかないと指標が出てこない。
- (委員) 図書館で借りた児童書を持ち帰って家に読み聞かせたしたかどうかまでのチェックまでは、立ち入れなくて調査方法がたいへん負担になるので、どれだけが貸し出されたか、だから本をたくさん用意しましょうね、くらいのスタンスで行ったほうがいい。
- (会長) 追加する目標値は積算作業が取り扱いしやすい指標にすべきだ。
- (委員) 貸出カードで一宮市民が児童書を何冊借りたか、小説を何冊借りたかという集計はできないか。増冊しただけではだめで、古い本は捨てて新しい本を入れるという図書の更新率と読書率が連動することを分析するプロジェクトチームがあればと思う。
- (委員) 児童書は何%貸出されているか、一般書は何冊一宮市民に貸出されているかは算出できますね。貸出冊数の増加も指標の一つに入れたらどうですか。
- (事務局) この計画は市の計画なので一宮市民に限定した。今現在の一宮市の図書の貸出というのは、市外の方でもできるのでその中から市外の方を除外するというのが、コンピュータ上可能です。市民一人あたりの貸出冊数は出ている。図書館の活動係数として今現在の貸出点数を人口で割った7.8冊という数字も昨年のもので出ている。児童書、一般書の分類も出るので総貸出点数を分母として、児童書がどれだけの割合で貸し出されているか算出できる。
- (委員) 一宮市全体の児童書の活用率、児童書はこれだけ使われてますよというのが指標として表われないと、子ども読書の活動はどこで計るのですか。
- (委員) 1次から2次、2次から3次へと部分的に数値を変えていくだけでなく、形を変えて、数字の見方を変えていくのが必要である。
- (副会長) 貸出カードからどの年齢層の子がどのくらい借りているデータは出やすいので年間の図書貸出冊数もある程度、年齢を分けて算出。不読率は年齢が上がれば高くなるから利用が減るとのでそれと見合わせてこの年齢層の中でどのくらいの子たちが図書館の本を利用しているのかということが、もう少し具体的に見えるような、細分化した目標が必要である。
- (委員) 家庭に本を配ってしまった後、その本が家庭で読まれているか調べることは難しい。貸出カードを活用して貸出のデータから来館者が利用している部分の数値が導き出せ

るとしたら、次の新しい利用へのきっかけになると思う。

(委員) こんなに素晴らしい公共の図書館があるのに親に何かを働きかけないと子どもたちは自分たちでは図書館に行けないという難しさを実感した。今回の取り組みの中に入っていない親への働きかけも子ども読書推進活動の一つではないか。

(会長) 今回の計画の中で、「子ども文化広場を中心とする」という言葉が「中央図書館を中心とする」と訂正されていることについて

(事務局) 2次の時には子ども文化広場が子ども読書推進活動の中心でしたが、今度3次を策定時にはこの中央図書館が建設されていたので今度は子ども文化広場の連携はしていくけど、中央図書館を中心として連携の強化ということを考えているので文面を変えた。

(会長) 目標値の設定の中で、もう少し子どもの読書活動が見えてくるデータを追加したらどうか。これについてはデータの取り方、その先々まで考えたデータを扱うべきだ。

(副会長) 児童館とか児童クラブが総数のうちの何か所が達成されているのかがこれだけでは分かりにくく読み取れない。児童クラブ、保育園は年々数が変わっていく。総数のどのくらい達成されているかが分かるような形での記載にしてほしい。

(会長) 目標値の設定について1次2次をそのまま受け継いできたところが多いんだけど、新たにこういったことを考えますよという意気込みをどこかに入れてほしい。

(事務局) 1次、2次と大きく違うのは、この間に「子ども読書のまち宣言」をしたということが一番大きく流れが変わった。「子ども読書のまち宣言」の理念、子どもたちがいつでも本が読める環境づくりができるという文言をとにかくこの中には盛り込みたい。とにかく家庭でも学校でも地域でも図書館でも、読書活動をするという土壌をいかに作るかということなので、そこに向けてこの第3次の推進計画の中には具体的に、より拡大できる文言を各所に働きかけをする形で進めていきたい。

(委員) ビブリオバトルをどういう形で学校でやるのですか。

(事務局) この事業は26年度から図書館で春と秋、年に2回実施。今年も10月30日に行う予定で今準備を進めている。今年度から図書館のから学校のへ出向くという出張講座を、この秋からスタートした。すでに今年度5校決定。来年は各学校6校ずつの予定。

(委員) 学校側の反応について

(事務局) 校長会で今年は5校先着という応募したところ、あっという間に埋まった。学校側は、かなりご興味を持っている。

(委員) 図書館開催されるビブリオバトルはだれもが参加でき普通に遊ぶことができるといい。

(事務局) 中央図書館の6階の多目的室で開催。バトルは、事前申し込みした方最大5人まで。観戦者の方は余裕があれば当日でも受け付けて参加できる。

(会長) 自分が選んだ本を一生懸命PRしても、だれも賛成してくれないときに、どうフォローするかまで考えて開催してあげてほしい。

(委員) いろんな本に出会う、いろんな感じ方をして楽しいんだよということを、自分では気づかなかつたことを知る機会ということをベースにしておけば、いろんな広がりのある楽しいものになる。

(会長) ご意見も出尽くしたので議題の(1)につきましてはこれで了とさせていただきます。あとその他なにかあれば。

(事務局) 今後の予定について説明。

(会長) それでは本日予定しておりました議題についてはすべて了とさせていただきます。本日の会議を閉じさせていただきます。